

ちんこきょうだいの



いわての



とってあそび!

魅力わんこ盛りのいわてから、いいもの、面白いものをよりすぐり。毎回わんこきょうだいがナビゲートします。

今月のテーマ

震災の教訓を伝える 乾燥フルーツ

震災経験が開発のヒントに



震災の時は、水や加熱が必要な非常食が食べられなかったり、果物などのビタミンを取ることが難しかったら。その経験から開発されたのが、この「乾燥フルーツ」なんだ。



食の教訓を伝えて恩返しを

原料は、陸前高田市の「米崎りんご」。乾燥によって栄養価がアップするし、長く保存できるから非常食にぴったり。震災の“食の教訓”を形にすることで、感謝の思いを伝えているんだって。



おやつに携帯できる非常食

いざというときにそのまま食べられるように、携帯しやすい1個パックになっているんだよ。バッグに入れておけば、おやつにも非常食にもなるから安心して出掛けられるね。

いざという時にも
水なしで食べられる
7-11常備食!



®わんこきょうだい



写真は、陸前高田市の「一般社団法人乾燥フルーツCome Come(かむかむ)」の「Come Come習慣」。1箱4袋(10g/袋)入り。厚めの輪切りで、かみ応えがあるので、少量でも満腹感を得ることができます。

今月の表紙

宇都宮聖花さん・田母神夏美さん



宇都宮さんは宮古市出身で2016年に三陸鉄道入社。田母神さんは秋田県出身で2017年入社。共に女性運転士として活躍中。

震災直後から地域を支えてきた三陸鉄道。運行の要となる29人の運転士の中で、現在、2人の女性運転士が活躍しています。

一人は、宮古市出身の宇都宮聖花さん。首都圏の鉄道会社に勤務した後、ふるさとの力になりたいと三陸鉄道に入社。運転士になる夢をかなえました。

もう一人の田母神夏美さんは、秋田県出身。岩手大学を卒業後、大好きな鉄道の世界で働きたいと入社を決めたと言います。

運転士として二人が一番心掛けているのは、乗客を

安全に運ぶこと。「三鉄はワンマン運転ですから、トラブルがあっても頼れるのは自分だけ。常に緊張感を持って運転しています」と田母神さん。

また、宇都宮さんは「お客さまとの距離が近いのが三鉄の良さ。顔なじみのお客さまも多いですし、お年寄りの方が降りる時は荷物を持つてサポートすることもあります」といいます。

三陸鉄道は、3月23日、新たな節目を迎えます。復旧するJR山田線の宮古〜釜石間が経営移管され、盛久慈間が一つのレールでつながるのです。その距離は163キロ、新しい路線名は「リアス線」。二人は「これを機に多くのお客さまに足を運んでいただきたい」と、三陸鉄道の新たなスタートに期待を膨らませていきます。